

2,062,357 円の寄附をいただきました

11 月に MELON に 2 件ご寄附をいただきました。

11 月 4 日（火）、仙台青年会議所からイベントでのマイ箸等の売上金 47,698 円のご寄附をいただきました。

また、11 月 20 日（木）には七十七銀行より「環境配慮型定期預金『<七十七> e 定期預金』」による 2,014,659 円のご寄附をいただきました。この定期預金は七十七銀行が宮城県の「わたしの e 行動宣言」に登録した方を対象に 9、10 月の 2 ヶ月間限定で募集したもので、取り扱い残高の 0.05% に相当する金額を MELON に寄附するという内容のものでした。MELON は宮城県から

の推薦を受けてこの定期預金の寄附先に決まり、この日は宮城県村井知事の出席のもと、七十七銀行鎌田頭取から長谷川理事長が寄附金の贈呈を受けました。

いただいた寄附金は環境教育等に有意義に使わせていただきたいと思います。



中国の街角で

あれだけ騒いでいた中国での大気汚染もオリンピックが過ぎてしまえばさっと消えてしまいました。オリンピックがあろうがなかろうが中国の環境問題は私達と深く関係があります。食の安全でわかったように、工業や貿易で経済的に深くかかわっている。また、汚染物質は大気や海などは国境を越えてしまうとなりどうしの国であるという関係。そして、もっとも大切なことは、私達と私たちの友人がどんな環境の下で暮らしているのかということの思いやる関係などです。

この秋、西安市を訪れる機会がありました。唐の時代の長安といった方が、昔の歴史だけを習ってきた私たちにはなんとなくわかったような気がします。新しいアパートの屋上には太陽熱温水器らしき物がびっしりと並んでいたり、電動バイクや電動アシスト自転車が多く用いられ、少し料金は高いが天然ガスの公共バスが走ります。都会の人々の環境に対する意識は確かに変わりつつありました。しかし、電気を送り出している発電所の

付近ではどうでしょうか。以前に訪れたことがあるのですが、コークスなどを生産している山西省では大気汚染のひどい都市もまだあるはずですが。私は中国の街角で、中国の「物語」を読みながら同じ歴史の中で暮らしている「となりの人」を思いやるのです。

「中国の昔話」（研秀出版、母と子の世界むかし話シリーズ 14、1974 年）を「クーンンとあかいこうま」を読んでみましょう。王様から言われたとおり龍をつかまえてきたクーンンは、王様のほうびをこことわって、お父さんと一緒に去ってしまいます。わたしはクーンンのように、王様でない、ふつうの人々の生活をしあわせだと思えるでしょうか。指輪ひとつぶんの金を探すのに 3 トンの土を掘り返すともいわれています。指輪がなくても、わたしのまわりはそういう物であふれてしまっているからです。この本には「読み方」がしっかり書かれています。が、「自分ならここはこう読む」と考えた方が 2 倍楽しくなります。

